

モリタ株式会社

創業以来80有余年、札幌市白石区で紙器製造業を営むモリタ株式会社では、7年前から高級志向の「Vカットボックス」の製造に着手している。価格競争など紙箱パッケージが置かれる厳しい市場環境のなか、差別化が可能な製品として実績を上げているが、さらなる生産の効率化と新たな形態のパッケージ開発に取り組んでいる。

高級紙箱パッケージ (Vカットボックス)の量産化・ 新形態の開発

デザインの自由度の高さが魅力

Vカットボックスは、厚手の紙にV字の切れ込みを入れることで、木箱のように組み立てて作る紙箱である。紙を使用することから、木箱と比べて様々なデザインを施すことが可能であり、質感がシャープであることや品質の安定性、廃棄のしやすさなども特徴だ。同社ではさらに、使用する紙に自社で商標登録を取得している牛乳パックの再生紙「MILKRAFT(ミルクRAFT)」を採用することで、木製のように強度が高く、高級感のある箱に仕上げている。

Vカットボックスの様々なデザインが可能で魅力を感じる企業やデザイナーは多い。例えば、オリジナリティのあるパッケージを作ることができるため、札幌市内の主要ホテルの多くが、正月のおせち料理の重箱に同社のVカットボックスを採用。顧客自身が他者との差別化を図ることのできるパッケージとして高く評価されている。

一方で、Vカットボックスへのニーズは高まっているものの、加工・製造が可能なメーカーは関東以北では同社だけである。このため、量産型の製造機械は存在せず、従来から、製造能力やコストダウンに課題を抱えていた。そこで、機械メーカーと連携し、量産機の開発・製作に取り組んだ。開発にあたっては、生産性の向上はもちろんのこと、他社と比べて使用する紙の種類が多いため、デリケートな紙質の場合でも傷つくことのないよう0.1ミリ単位の加工精度が求められた。また、これまでの直方体(四角形)の箱以外に六角形やドーム型などの新しい形態のパッケージも同時に検討した。半年もの間、何度も試行錯誤を重ね、ついに量産化と新たな形態の製造を可能とするVカットボックス製造機が完成した。

道外・海外からの引き合いにも期待

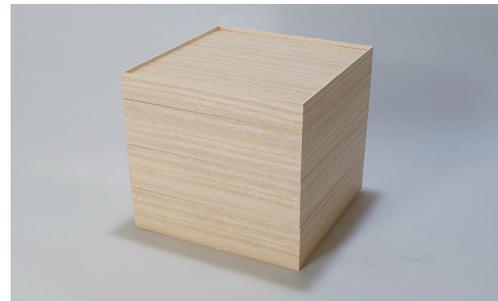
Vカットボックスの組み立ては主に市内の福祉施設や就労支援施設に外注しているが、組み立てがより容易な器具も開発し、従来と比べて生産性は2倍になると予測している。これらの効率化により、道内から道外、さらには海外へと販路の拡大を狙っている。実際に中国向け商品の包材として既に採用されており、海外からの問い合わせも、来始めているという。今後は、考えた形をすぐに形にできるメーカーとしての強みを活かしながら、営業力・発信力を強化していきたいと考えている。



直方体のバリエーションのほか、六角形やドーム型のものも可能に



高級感のある箔押し加工なども可能



一見では木箱と変わらない木目調に仕上げた重箱

札幌のデザイナーとも 連携し、発信力をもった 営業展開へ

常務取締役 近藤 篤祐



道内外を問わず、Vカットボックスに対するニーズは高いものと確信しており、今後は認知度を高めていく必要があります。そのため、デザイナーとの連携にも力を注いでおり、例えば当社で2012年から開催している箱のデザイン展「HAKOMART」に参加している札幌のデザイナーを通じて、道外のデザイナーに当社のVカットボックスの魅力を伝えていただくなど、様々な形で発信力を高めていきたいと考えています。